

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>基本理念において、「地域と共に、あなたを支えます」を入れることで地域の中で支えることの意義を作り上げている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念は表示しており、毎朝の申し送り時、地域密着型サービス等としての事業所の基本理念を全員で復唱することで確認共有を行っている。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>玄関などに掲示しており、契約時に家族には説明している。家族会や地域の方々には掲示板を活用するなどして行事の開催など広報を行っている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>朝の奉仕作業や自治会のゴミ当番などに積極的に出て、顔見知りになったり、ご意見を伺ったりしている。又イベントなどや行事などへの参加をお願いしたりしている。そしてホームへの見学なども、気軽に立寄って頂けるようにしている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会にも加入しており、公民館の清掃、年中行事(初午祭等)にも参加している。</p>	<p>○ 移転したことで近くに大きな病院もあり、夏祭り、バザー等相互交流を図る予定である。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等を通じて、介護教室は、公民館長さん・民生委員さんに働きかけて、お手伝いしたい旨を伝えてあるが、実施に至っていない。	○	もっと働きかけて、地域のお役に立てるような取り組みをしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、ケアの質の維持向上させることであり、評価をしたり受けたりすることで、日々のケアを振り返ったり確認することが出来ている。日々の申し送り・ミーティングなどで、問題を出し合い維持・向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表・地域の代表・町役場の担当の方に参加を頂いている。評価の結果報告や状況報告、意見や質問などを頂き、日々のケアに役立てている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の研修等にも参加し、担当者と随時連絡を取り、相談・助言を頂いている。毎回運営推進委員会にも参加して頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を利用されておられる利用者もおられ、以前成年後見制度を利用された方もおられたこともあり、施設内研修等を通じて制度について、学ぶ機会を設けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような事が虐待にあたるか研修会、ミーティング等を通じて、利用者が、毎日気持ちよく生活して頂けるようケア・言葉かけなどに注意を払っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、契約書・重要説明に基づいて説明し、不安なく過ごして頂けるよう努めている。退所時も、段階をおって話し合いを持ち、関係機関との連携を取り、責任を持って次の行き先をきちんと決め、納得して頂いている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>何でも言える雰囲気作りに努めている。面会、行事に来られた家族にもその都度、不満を話されたりしていないか確認をしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、利用料のお知らせと一緒に通信を送ったり、近況の報告・金銭の管理状況を知らせている。健康状態・行動に変化が見られた時は、その都度、電話にて報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会において、必要に応じて職員は席をはずし、家族同士で話し合っていたり、率直な意見交換がされ代表者より報告を受けている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、個別面談、ミーティング時等、その都度職員の意見を聞く体制は出来ており、提案は、積極的に受け入れている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>病院受診の送迎や付き添いなど、ご家族に負担をかけないよう、職員の人員配置を考えて、職員が互いに協力されるよう増員することで対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>行事等を通じて各館の職員の相互交流の機会を増やすことでなじみの職員の数を増やし、このことでどの職員においても安心して生活して頂けるよう配慮している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得の研修参加の為に勤務の調整などをして、スキルアップに協力している。研修会への参加も積極的に勧め、参加料の負担もしている。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の研修への参加、他のグループホームとの情報・意見交換も行い、質の向上に努めている。町内の他のグループホームの職員と食事会を開いて、交流している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>皆で食事に行く機会を持つようにしている。休みの希望も、出来るだけ聞き入れ、疲れやストレスがたまらないように、休憩の時間も必ず、確保できるようにしている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修に参加しやすいように参加費を負担したり、休みの調整をしている。資格取得の研修の為に休も、優先的に取れるようにしている。資格手当と並びに資格取得時には祝い金も出している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に必ず面会に行き、生活の様子を見て、お話をさせて頂いている。入居を拒まれている方に対しては、数回訪問して顔見知りになり、何でも話せる関係作りに努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談を電話で受けた時は、必ず施設見学に来て頂いている。その時に、色々な思いを聞かせて頂いたり、自宅に訪問して、様子を見させて頂いたりして、気持ちを共感出来るように努めている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	直ぐ入居できる場合は、本人・家族の状況を把握し、お互いの思いを聞き、必要なケアを考えている。空きがなく直ぐ入居して頂けない場合は、町内のグループホームとの連携もっており、紹介ならびに他のサービスを紹介して利用を勧めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来て頂いたり、こちらから訪問して、ホームのことを少しずつ知って頂くようにしている。又、入居に消極的な人に対しては、家族と相談しながら、自宅に訪問したり、ホームに来て頂いて、しばらく過ごして頂くように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事は職員と一緒にして頂いたり、職員が知らない事を教えて下さったり、同じ時間を過ごし、喜び悲しみを分かち合いながら、共に支えあって生活している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を家族に伝え、引越し、行事等においてお手伝いして頂ける事はお願いして、職員と一緒に本人を支え、喜び悲しみを共に分かち合っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人と家族との関係も、入居時に必ず確認している。イベント時は、必ず家族にも声をかけ出席をお願いしたり、出来るだけ面会にも来て頂いて、入居後も良い関係を築けるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を聞き、出来る範囲で、馴染みの場所にお連れする様に努めている。面会時間も設けず、これまで付き合いのあった方と長く付き合っていけるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共に楽しく過ごす機会を多く設けることなど、常に利用者同士の関係には、気を配っている。もめたり孤立している時は、直ちに職員が間に入って話を聞いたり、席を考慮したり、利用者同志のいい関係が保たれるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院により退所された方はお見舞いに行ったり、転院される時は転院先に訪問している。亡くなられた時は、通夜・告別式にも参加して、その後も交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることが難しい方もおられるが、毎日の関わりの中、家族との話し合い等を通して、本人のお思いをくみ取るように努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、自宅を訪問するなど、これまでの生活状況は、本人・家族から聞き取り、必要に応じて、以前利用していたサービス担当者からの情報も提供してもらっている。また利用後も自宅を訪問するなどして、把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のこれまでの生活スタイルを重視し、本人の意思を尊重して、一日を過ごして頂いている。手仕事記憶の活用など、出来ることに注目して支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族・Dr・スタッフに意向を聞いて、プランを作成している。本人の意向の確認が困難な場合は、家族との対話の中から生活歴、趣味等を通じて把握に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三カ月おきに見直しをするようにしている。特段の変化が見られない方は継続している。状況に変化が見られた時は、その都度、家族・スタッフなどの意見を聞きながら、見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況を確認したり、変化があった時は、ケア記録に詳しく記入して、情報を共有して実践・プランに生かすようにしている。又連絡帳を活用し、逐次利用者の変化について全職員間で共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方にいる方、高齢の方等家族の状況に配慮し、通院の送迎・付き添い・入院中の洗濯・衣服の準備・食事介助など、相談しながら対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方に声をかけ、定期的に保育園の園児さんにイベントに参加して頂くことで、互いに顔なじみになり、孫のような子供達と接して、良い気分転換・刺激になっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	在宅時の担当のケアマネジャーとは、必要に応じて連絡を取って、情報交換をしている。特養の申込みをしている人には、判定委員会前に現状の説明をしたり、金銭管理をお願いしている社協の方とも連絡を取り合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの協働はもちろん、また、後見人制度の活用に対しても、管理者が研修会に参加したり、職員に資料を配布するなどして積極的に取り組んでいる。	○	運営推進会議に介護保険の担当者の参加は頂いているが、今後は地域包括センターの職員の参加を行っていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅診療計画の契約を結んでおり、主治医による月二回の往診を受けている。体調不良時は、施設側で直ぐ受診したり往診して頂くことで、医療を受けて頂ける体制は出来ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時、職員の意識の確認を行い、特に申し送り時、利用者の位置の確認を行うなどして声量に配慮するなど接し方には気をつけている。記録等は、家族や家族から許可が出ている場合のみ見て頂き、プライバシーの保持には気をつけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いを伝えやすいような、声かけに心がけている(具体的に例を示したり)。疑問に思っていることは、分かりやすく理解出来るまで、何度でも説明するように心がけ、自分で決定して行動出来るようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事・就寝などは、一人一人のペースに合わせて行っているが、入浴の時間・散歩などは、入居者様の体調を考慮しながら、柔軟に対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服選びが可能な方は、本人に確認して、好きな物を選んで頂いている。カットは、行きつけの所があるか確認し、家族に相談して連れて行って頂いたり、ホームに来てくださる美容師さんでいいと言われる方に対しては、適宜カットをお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のものを取り入れたり、食べられない物は、他の物に変更したり、食事の大きさ・形態も一人一人に合わせている。準備・後片付けなど、声をかけて、出来る事は少しでも行って頂いている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員の食材購入時に利用者との同行時、食べたいおやつを選んで購入して頂いたり、職員が買って来て、お渡ししたりしている。	○ 今後より多くの利用者を食材購入時に同行することで利用者のショッピングの機会を増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のある方は、訴えのあった時、尿意のない方も時間を見て、トイレにお連れするようにしている。排泄表を活用して、間隔の長い方には、トイレの声かけをしている。出来る事(パンツの上げ下げ)はして頂き、出来る喜びももてるように心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則1週間に3回入浴して頂いている。順番やお湯の好み入浴時間は、本人の意向を聞いている。皮膚疾患等必要に応じて入浴回数の増等配慮している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定期的散歩、余暇活動、レクリエーション活動等を行うことで生活リズムを整える努力。夜間不眠の時は、温かいお茶を勧めたり、お話をしたりして、心が和むようにしたり、午睡を勧めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	出来る事(台拭き・掃除・洗濯物たたみ・袋作り)をして頂いて、生活の中に張り合い・役割が持てるようにしている。散歩を日課にしていた人は、時間を見つけて外にお連れして、気晴らしが出来るようにしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じ小遣い銭を持参されておられる。必要に応じて買い物に行き、自分で支払いをされる。普段、持っておられない方も、外出時には、お金を渡して、支払いをして頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的に散歩を実施しており、職員がついて自宅に帰って果物を取ったりと、その日の中で、出来る範囲で行っている。どうしてもその日に行けない時は、約束して、後日必ずお連れするようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見や買い物・食事など、日頃行けない所は、職員の数を多くして、お連れしている。また墓参り等個々の利用者の希望に応じて家族と連絡を取り、適宜実施している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと言われる時は、かけて差し上げて、お話をしている。利用の際も子機を使用するなどしてプライバシー、身体状況に対し配慮を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限は特に設定していません。面会は大歓迎で、いらして頂いた時はご家族と一緒に、自室やホールで一緒にお茶を飲んで頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為を理解し、拘束をしないケアを行っている。タッチセンサーを使用するなどして安全面の配慮を行っている。挨拶・言葉使いにも、留意し接している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室には鍵をかけずに、人の出入りが自由に出来るようにしている。入居者様同士が、互いに部屋を訪ねて話をされることもある。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室におられる時は、中の音が聞こえるように少しドアを開けていたり、日中も所在の確認は常にしており、転倒などがないように気を配っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ナイフ・はさみは、基本的に部屋に置かないように、ご家族にもお願いして預かり、必要時お渡ししている。自分で管理でき、危険がない方は、爪きり・かみそりを持って頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ホーム内で起こりうる事例については、知識を得、一人一人の状態に応じて、見守り・介助を行い、事故のないように気をつけている。ヒヤリハットを活用するなどして情報の共有を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応や観察の仕方など、勉強会を開いて、とっさの時に対応出来るようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回の防災訓練は行っている。近所の人々にも、協力が得られるように声をかけている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	今までと少しでも変化が見られたら、家族に連絡を取り説明している。転倒や急変など、いつでも起こりえることも話している。病状は先生に説明して頂き、これから予想される事も理解して頂き、今後の対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、健康観察を行って、異常の早期発見に努めている。変化があった時は、医師に報告して指示を仰ぎ、スタッフ全員に申し送りノートで知らせている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	疾病と内服の種類・量は、説明書を見て理解し、不明な点は、必ず確認するようにしている。内服は飲む直前に本人に渡し、服用して頂いている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取を勧めたり、繊維の多い食品を献立に取り入れるようにしている。ホール内の歩行練習や立ち上がり運動や体操など、身体を動かすことを勧めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを促し、自分で出来ない方は介助している。1週間に1回は、義歯洗浄剤を使用して、つけ置き洗いをしている。歯科受診が必要な方には、必要に応じて往診、通院も支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は、管理栄養士が作成したものを基準とし、定期的にカロリー計算を行ってもらっている。バランスの良い食事を心がけている。水分も1日1000ccを目安にお茶を飲んで頂いている。食事摂取量も記録に残している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は、入居者・職員共に全員受け、手洗い、手指消毒、うがいに関しても、入居者・職員・面会者にも声かけして、励行している。感染症の検査は、入居時に必ず行い、感染防止に気をつけている。湿度も調整している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾・まな板は毎日消毒している。食器類は、食器洗い乾燥機を使用している。冷蔵庫の中も1週間に1回、拭き掃除を行っている。調理者の頭巾、マスク、手洗いも徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺には木を植えたり、畑には季節の野菜を植えて、入居者と共に収穫を楽しんでいる。玄関周りも広く、催し等広報版を活用するなど解放的な感じで、外部から入ってきやすい雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには季節の花を飾り、落ち着いて過ごせるように心がけている。トイレは悪臭がしないように、換気に気をつけている。台所はオープンになっており、食事の臭いがホールに漂い、入居者様の食欲を刺激し、皆様、全量食べて下さっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く、気の合った人と話が出来たり、食堂の隅のほうに行くと、一人でゆっくりする事も出来、ホール内でも、その人なりの居場所を持つことが出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていた、馴染みの家具や衣服を持ってきて頂いて、本人が居心地がよい空間作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はまめに行い、空気清浄機も設置し、湿度も調整し、温度調節も利用者に確認しながら、快適に過ごして頂けるように心がけている。ホールと廊下の温度差も差異が生じないように気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールが広く出来ており、車椅子の方も、駆動して目的地に行けるようになっている。歩行できる方もつまづいて転倒しないように、テーブルなどは使用する時だけ出すようにして、広い空間がとれ、見守りが容易に出来るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室の分からない人には目印をつけたり、トイレには看板をつけて、迷わずに目的の所に行けるようにしている。分からない時は、直ぐお連れするのではなく、声をかけて説明して、ご自分で行けるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	全居室より段差なくデッキに出て、面会の方の見送りをしたり、お天気のいい日は、お茶を飲んだりして気分転換が図れるようにしている。庭でバーベキューパーティーも開催している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型のサービスとしてのグループホームは、地域の方々にはまずは存在を知って頂き、気軽に訪ねて来て頂けるように、掲示板を活用するなどしてイベント時にはボランティアで参加して頂いている。この出会いが地域との架け橋になったり、困っている事があつたら、気軽に相談して頂けるような関係が築けたらいいと考えている。地域の方とグループホームが共に助け合って、地域の方が住み慣れた所でいつまでも暮らして行けるように、お手伝いが出来たらと考えている。その為にも、旧I号館の活用(グループリビングを想定)を今後行うことでより細やかな支援をしていきたいと考えている。このグループホームの特徴として、どの居室からもすぐに避難が出来るように周囲にテラスを設置することで、緊急時への対応を行っている。また新館に移転したことを期に月二回の施設内研修を実施することで、気持ち新たに基本に立ち返ることで職員の意識向上を図っている。職員自身も心身共に健康でなければ、良いお世話はできないとの理念の下で勤務希望を粗全部、勤務表に反映すること。しっかりと確実に休憩を取ること。疾病の際は検査費用を一部負担するなどして、職員の福利厚生の実を充実を図るなど、主に女性の職場としての職場環境を整えることで職員の定着を目指しています。